

14. 汗の染色布に及ぼす影響に関する研究

第2報 絹布の退色ならびに浸出について

愛知学芸大 和田 哉子

1. 6種の酸性染料を選びそれぞれによる染色絹布について次の研究をした。人造汗及び汗の成分別処理布を長期間放置してこれを無処理のものと比較し退色上の差異を検討し次にこの試料を光曝露して放置による退色と放置後光曝露による退色との間の差異を研究した。最後に人造汗及び汗の成分別溶液による染料の浸出量を比較した。

2. (1)人造汗及び汗の成分別処理布を放置ならびに放置後光曝露しこれをホトボルト光電反射計により測色し三色刺激値及び明度を求めCIE色度図を使用して主波長と刺激純度を計算した。

(2)蒸留水、人造汗、食塩、尿素、乳酸の各溶液を用意し液温40°Cとして2時間浸漬しその浸出液の光透過率を日立電光度計により測定した。

3. (1)人造汗及び汗の成分別処理布を長期間放置すればいずれも主波長刺激純度、明度の比較的大きな変化を示す。

(2)放置の場合も放置後光曝露の場合も一般に刺激純度は低くなり明度は高くなる。

(3)一般に人造汗による浸出量は蒸留水による浸出量よりも稍少い。